



「屋久島たんかん」  
高品質出荷に向け摘果作業



屋久島地区で6月下旬、「屋久島たんかん」の摘果作業が始まりました。

JA果樹振興会は各集落で摘果・防除講習会を開き、高品質出荷に向けて、営農指導員が管理の注意点や生育状況を説明しました。

摘果作業は毎年梅雨の時期に始まります。屋久島地区は年間降水量日本一といわれるほど雨が多くの地域です。

日々降水量も増える中、生産者は品質向上に向けて雨に打たれながらも作業を続けました。



種子島高校植物バイオ班  
生育サイクルを研究し早期供給へ



種子島高校で7月16日、生物生産科の植物バイオ班が増殖した「安納いもバイオ苗」の引渡し式が行われ、1市2町とJAへ提供されました。植物バイオ班の生徒は、生育サイクルを早めるために、昨年からの研究課題として光量の強さに注目していました。LED（昼光色植物プラント用照明）の試験を行い、結果を報告しました。

JA鮫島組合長は「生産者に早く供給することができれば、早期植付・収穫で基腐病の被害の抑制や生産量の向上が期待できる」と話しました。

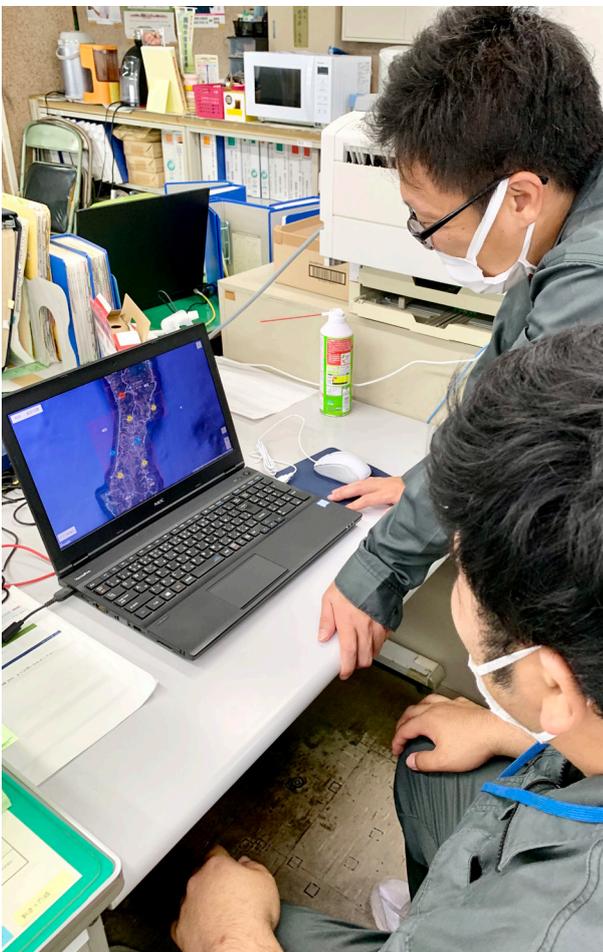
行政と連携して鳥獣対策  
鳥獣害クラウド運用開始



JA種子屋久は、地域全体で鳥獣害対策に取り組もうと行政へ協力を要請し、クラウドを活用した鳥獣害対策を種子島全島で開始しました。

令和元年に西之表市で先行導入され、令和2年に中種子町、令和3年に南種子町でも開始し種子島全島をカバーしました。

わなや防護柵の設置位置、捕獲実績が地図上に表示され確認できるようになります。担当者は、捕獲や見回りの記録をスマートフォンなどで



簡単に登録でき、捕獲実績の帳票も作成できます。

島内では長年、鳥獣被害に悩まされており、特に鹿の被害が多発。数年前までは、園芸作物への被害が多く、現在はサトウキビやサツマイモへの被害も急増しています。新芽や苗の引き抜き、マルチを破るなど定植後の被害が目立ちました。

今後は、ドローンを活用した生息域調査やインターネット交流サイト（SNS）を活用した地域住民からの被害報告などの情報収集を検討しています。



双子座  
5/21  
～6/21

【全体運】表面的にはうまくいっていても針のむしろといったことがあるかも。人の話は最後まで聞いてきちんと対応を  
【健康運】衛生管理が重要。手洗いはいつもより丁寧に  
【幸運を呼ぶ食べ物】桃